

未来の芽

ドングリ拾いから早1年が経ちました。「苗木のホームステイ」の苗木たちは、冬ごもりの支度を着々と進め、これからの寒い時期を乗り越えます。

クヌギやコナラの葉は、冬には枯れてしまいます。よく見ると、同じ苗木の葉でも、早く枯れる葉と、なかなか枯れない葉があります。一般に、早く開いた葉や、太陽をたくさん浴びた葉など、元気がなくなったものから枯れるといわれています。また、クヌギやコナラの枯葉は、枯れた後もなかなか落ちず、春まで残るものもあります。



葉が枯れたあとも、根や茎や芽が呼吸を続けていて、水や空気が必要です。冬の間も、土が乾ききってしまわないように水をあげます。

このコーナーでは、「苗木のホームステイ」の様子についてお伝えしていきます。

シラカシ

シラカシは、1年をとおして青々とした葉があります。春に、古い葉だけを緑色のまま落とすのですが、常に緑色の葉があり、落ちる葉も変色しないので、落葉したことに気づきにくい樹木です。

樹木の種類によって、落葉の色や葉を落とす時期が違いますし、同じ種類でも、葉が枯れる時期や枯葉の色は微妙に異なります。

1本1本の樹木に個性があります。みんなそろって元気に暖かい春を迎えられるよう見守っていきます。

コナラ(紅葉の色や進み具合が少しずつ違います)

大会テーマとシンボルマークの表彰式を行いました!

第61回全国植樹祭大会テーマとシンボルマークの表彰式を、11月15日(土)ららぽーと横浜で行いました。当日は、県産木材木工コンクールの表彰も合同で行われ、賑やかな表彰式となりました。



(財)かながわトラストみどり財団のイベントについて

緑化運動・育樹運動ポスター原画及び標語コンクール表彰式を行いました!

第61回全国植樹祭大会ポスターと合同で募集した、財団法人かながわトラストみどり財団の「平成20年度緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール」と「平成20年度緑化運動・育樹運動標語コンクール」の表彰式が、11月16日(日)地球市民かながわプラザで行われました。受賞作品は財団ホームページでご覧いただけます。



(財)かながわトラストみどり財団ホームページ <http://ktm.or.jp/>

●詳しい内容は財団事務局 ☎045(412)2525までお問い合わせください。

〈ポスター原画決定のお知らせ〉

第61回全国植樹祭の開催を周知するため、財団法人かながわトラストみどり財団が例年実施している「緑化運動・育樹運動ポスター原画」と合同で大会ポスター原画を募集したところ、県内の小学生、中学生、高校生(特別支援学校を含む)から、560点のご応募をいただき、会長賞を次のとおり決定しました。



会長賞

画題:温かい緑

作者:井上 美紀さん
(県立小田原城北工業高等学校3年)

お問い合わせはこちらまで

第61回全国植樹祭神奈川県実行委員会事務局
(神奈川県環境農政部森林課全国植樹祭推進室内)
〒231-8588 神奈川県横浜市中央区日本大通1
TEL:045-210-4373 FAX:045-210-8855
URL:<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/sinrin/zensyoku/index.html>



古紙配合率100%再生紙を使用しています



クールネッサンス
COOL RENAISSANCE
KANAGAWA

神奈川県からCO₂削減を呼びかけ「クール」な地球を取り戻そうという、地域から「地球復興」を目指す『クールネッサンス宣言』のロゴマーク

全国植樹祭だより

かながわ未来の森

第4号

平成20年12月



最優秀賞

愛称:かなりんちゃん
作者:河野 通さん(大阪府在住)

第61回 全国植樹祭シンボルマークが決定しました!!

第61回全国植樹祭シンボルマークを全国の皆さまから募集したところ、1,021点のご応募をいただき、最優秀賞1点と優秀賞5点を次のとおり決定いたしました。

ご応募いただきました皆さまどうもありがとうございました。

最優秀作品は、今後、全国植樹祭のマスコットとして、パンフレットやホームページ等で活用するとともに、全国植樹祭終了後も神奈川の森林行政をPRするために活用してまいります。

優秀賞

<p>小学生(低学年)</p> <p>わかばちゃん 作者:内田 ありささん (函嶺白百合学園小学校2年)</p>	<p>小学生(高学年)</p> <p>かなっく林 作者:古山 結季さん (南足柄市立岩原小学校4年)</p>	<p>中学生</p> <p>かなってくん 作者:西野 耀さん (世田谷区立船橋中学校2年)</p>	<p>高校生</p> <p>はっぴーちゃん 作者:齋 史歩さん (洗足学園高等学校3年)</p>	<p>一般</p> <p>かなりんちゃん 作者:西田 一成さん (東京都在住)</p>
--	--	---	--	---

第2回・第3回森のリレーフェスタを実施しました!!



森のリレーフェスタとは?

森のリレーフェスタは、平成22年春季に神奈川県で開催する第61回全国植樹祭の機運を全県的に盛り上げていくため、全国植樹祭開催までの間に、緑の少年団の子ども達など多くの県民に参加していただき県内各地をリレー方式で周りながら、合計7回程度実施するイベントです。(第1回目は7月26日に相模原で実施。詳しくは第3号をご覧ください。)

- 主催: 第61回全国植樹祭神奈川県実行委員会(事務局: 神奈川県環境農政部森林課)
- 協賛: (第1回~第3回実績) コカ・コーラ セントラルジャパン株式会社、タカナシ乳業株式会社

第2回 森のリレーフェスタ

やどりき水源林のつどい・成長の森コース

第2回目は、毎年秋に松田町寄で行われている、「やどりき水源林のつどい」と併催しました。

- 実施日時 平成20年10月18日(土) 9:30~14:00頃まで
- 実施場所 松田町寄 やどりき水源林
- 参加者数 約440名(やどりき水源林のつどい全体、スタッフ含む)、うち植樹参加者158名(スタッフ除く、うち秦野みどりの少年団26名)



●植樹会場まで
かながわ森林インストラクターの案内により、植樹場所までおよそ40~50分の山道を登りました。

●植樹会場
間伐により明るくなった人工林をより自然度の高い混交林にするため、広葉樹の苗を植えました。植える苗は、赤ちゃんが生まれたご家庭等から寄附されました。



●植樹
かながわ森林インストラクターから説明を聞き、広葉樹580本を植えました。秦野みどりの少年団、水源林パートナー、定着型ボランティアの皆さまに植樹していただきました。



第3回 森のリレーフェスタ

えびなの森植樹

第3回目は、海老名市で取り組んでいる「えびなの森創造事業植樹宣言(第1回市民植樹祭)」と併催しました。

- 実施日時 平成20年11月1日(土) 10:30~12:30頃まで
- 実施場所 海老名市役所前広場および横須賀水道路
- 参加者数 約500名(スタッフ除く)、うち植樹参加者約70名(スタッフ除く、うち中山緑の少年団10名)

●えびなの森植樹宣言
植樹に先立ち、平成20年度から4カ年の計画で海老名市内に12万5千本の植樹を行う「えびなの森創造事業」の植樹宣言が内野海老名市長により行われました。



●記念植樹
第3回森のリレーフェスタとえびなの森創造事業植樹宣言を記念して、来賓等関係者10人による記念植樹・記念撮影が行われました。

●参加者植樹
参加者により100本の植樹が行われました。植樹は、海老名市役所近傍の横須賀水道路で行われました。植樹場所の関係で低木の植樹でしたが、街の中に緑を増やす貴重な植樹です。皆さま、丹精こめて植えていただきました。



えびなの森創造事業について詳しくはこちらのホームページをご覧ください → <http://www.ebinanomori.jp/>

My 森林物語

私達に出来ること

中村 道也

関東山地に見る野生生物の主要な生息地は、ほぼ全て人間の生活域になり、生息地は限定・孤立化し、「種」による絶滅も懸念され、自然と共存する手段の一つとして、「コリドー(緑の回廊)」設置の必要性を国や県に要望したのは15年前の事でした。

私は生態系コリドーを展開するため、東京農工大学や京都大学の先生方など、研究者の協力を得、当時、NGOとしては、全国でも初めての試みである、遺伝子調査とマップ作成を依頼しました。そして、専門家によるDNA等の調査研究に平行し、「私達に出来ること」の範疇の中で、市民の手による質の高い森林を取り戻すべく、広葉樹植栽を始めました。



水のある風景と子ども達



植樹活動

●筆者のご紹介 中村様は、自然保護活動をライフワークとし、NPO法人丹沢自然保護協合理事長としてご活躍中です。また、県自然環境保全審議会委員、県森林審議会委員など自然環境に関わる様々な場面を通じて、行政との協働も積極的に行われています。
ライフワークの自然保護活動では、全国に先駆け、遺伝子を基本とした市民参加の植栽活動を実施、継続されています。また、「見て 触って コネクリまわして自然を知ろう」をテーマに、「森の学校」(1972年に丹沢自然保護協会内に設置)を主宰されるなど、多岐にわたってご活躍されています。

から、丹沢産苗の生産を依頼しました。現在、私達の広葉樹植栽活動は活発に展開していますが、発足当初から現在に至るまで、多くの人の協力と理解で定着した活動です。

私達が始めた丹沢ゴミ持ち帰り運動が、クリンピア21に発展したように、市民である私達の植栽活動が、官民学協働に先鞭を付けたと、今でも自負しています。

生活のエネルギー源が薪や炭から石油に代わり、森林との関わりが少なくなってきたと思いがちですが、森林は木材の利用だけでなく、私達が生きるために必要な飲み水、湧水の緩和、洪水調整、また、最近言われる地球温暖化防止など、様々な機能や役割を持っています。さらに、森林をはじめとする自然環境は、人間の健康な精神を養う場でもあります。

自然を駆逐する事で成り立ってきた経済効率優先の社会の中で、野生生物の生息を保障する遺伝子を基本としたコリドーは、多様性の保全という考えから、とても大きな意味を持ちます。多様性のある森林を再び息づかせる事は、森林国家日本が世界に果たすべき責任と考えます。



森林自然度の指標・熊



クマタカ



植樹活動

このコーナーでは、県内で森林を支える方々のインタビュー・活動等をお伝えしていきます。



中山緑の少年団の活動を通じて

たなべ ゆうき
中山緑の少年団 田辺 祐樹
(横浜市立上菅田小学校5年生)

ぼくは、札掛で行った木の間伐が心に残りました。はしごに登って木の下枝を切って落としました。また、山の斜面でいらぬ木を切りました。他の木の成長を良くしたり、動物が住めるようにするために間伐をするのだと思います。

他に海老名では植樹祭イベントでスイフヨウの苗を植えました。早く大きく成長してほしいなと思いながら植えました。

まだ他には、横浜市緑区にある県立四季の森公園の祭りでは、緑の羽根募金でたくさんの募金をしてもらいました。それを、森林のために使えたらいいと思いました。そして、どんどん森林が増えたら良いと思います。

緑の少年団では、楽しい事や大変なことがあります。大変でもがんばっていけば、森林のためになる事が出来て、森林や人や動物や花などが幸せに過ごしていけると思います。

このコーナーでは、県内の「緑の少年団」の子どもたちの活動などをお伝えしていきます。